

大阪大学の研究力の現状分析、大学を取り巻く科学技術・学術政策の動向調査、他大学等の研究支援に関する情報収集等。上記に基づいて、大学執行部・部局執行部に対しては研究戦略企画立案のための情報提供、研究者に対しては外部資金獲得のための支援を実施。

本事業のポイント

- 多数の統計データ、データベース
- 研究力分析に長けたURAの配置
- 分析結果を執行部や構成員と共有し、学内ネットワークを構築

主な情報源

●統計データ

- 科研費補助金配分結果
- 競争的資金配分結果
- 公的統計
- 各研究機関のファクトブック

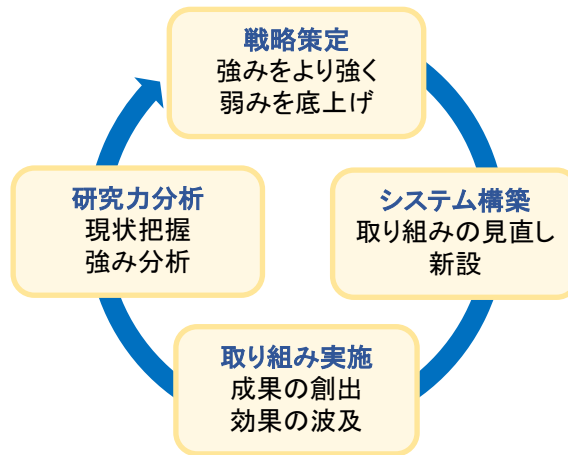
●データベース

- 学内DB ● 商用DB ● KAKEN DB
- 特許情報DB ● 大学ポートレート

●大学ランキング

- THE World University Rankings
- QS World University Rankings
- Academic Ranking of World Universities

本事業の目指すイメージ



取組実績 主な活動 (平成28年4月～12月)

- 研究データ分析による経営判断支援多数
- 政策動向の情報提供(審議会傍聴・報告書作成6回、メールマガジンで情報発信2回)
- CREST・さががけ・ACT-I公募説明会調査実施17領域
- CREST・さががけ・ACT-I学内説明会で講演3回(参加者計81名)
- 事務職員に対する情報提供(SD)12回

今後の課題

- ① 執行部のニーズを先取りした情報提供を実施するとともに、必要に応じて戦略オプションを提示する(意思決定は執行部が行う)
- ② 教育研究活動全体の状況を適切に把握するために多角的に指標の開発を行い、書誌情報だけに頼ることのない調査・分析体制を整備する
- ③ 各種分析を通じて構築されつつある学内のリサーチ・アドミニストレーション・ネットワークをさらに充実させる

具体的事例



平成28年11月25日第5回学術政策セミナーで分析結果の報告

大阪大学の研究成果の実用化を目指し、研究成果の実用化に関心を示す民間企業との契約・本格的協働につなげることを目的とした支援制度。

本事業のポイント

前制度（UICギャップファンド）の焦点を明確化し、発展事業可能性のフィードバックを重視した2つのプログラム

- 共同研究・ライセンス支援プログラム
- 創業支援プログラム
- ※起業支援は別グラントを準備

学内外の専門家や専門機関の連携による様々な支援活動

審査段階において、外部有識者のコメントを踏まえた実用化の方向性選択に役立つ情報を提供する

- 産学連携本部による事業化ニーズ調査、研究成果の実用化に関心を示す企業との交渉等を通じて、契約締結・本格的協働を達成するための要件を明らかにする
- 研究開発費ならびに、市場調査費・特許調査費を助成

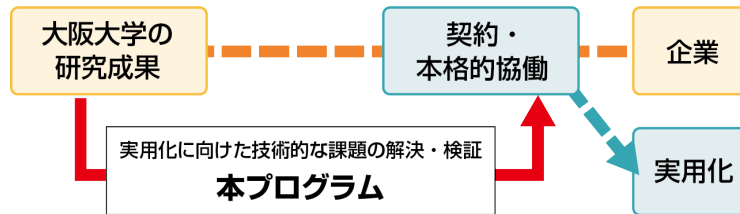
取組実績

平成23年度から前制度（UICギャップファンド）を実施し、これまでに自主経費での取組も含め、例えば、右記のような成果につながっている。

1. 学内公募回数: 累計6回
(平成24年度は年2回公募)
2. 応募課題数: 累計163課題
3. 採択課題数: 累計63課題
(採択率38.7%)

4. これまでに採択された課題の実用化進捗状況
(ア) 民間企業との共同研究契約の締結件数: 累計41件
(イ) 民間企業への知的財産権の実施許諾契約件数: 累計6件
(ウ) 大学発ベンチャー設立: 累計3社
(エ) 実用化に向けた競争的資金の獲得: 累計33件
例1: JST・大学発新産業創出プログラム (START)
例2: 経済産業省・医工連携事業化推進事業

本事業の目指すイメージ



申請要件・スケジュール

共同研究・ライセンス支援プログラム

- 資金規模**
- ・ 1課題250万円以内
- 申請者の要件**
- ・ 大阪大学の教職員であること
 - ・ 本制度を通じた研究成果の実用化に意欲があること
- スケジュール**
- ・ 公募: 10月
 - ・ 第1段階審査: 11月
 - ・ 第2段階審査: 12月
 - ・ 助成期間: 最長1年間

創業支援プログラム

- 資金規模**
- ・ 1課題数百万円以内
- 申請者の要件**
- ・ 大阪大学の教職員であること
 - ・ 本制度を通じた研究成果の実用化に意欲があること
- スケジュール**
- ・ 公募開始: 10月
 - ・ 随時受付
 - ・ 助成期間: 最長1年間

採択者の声

▶ 医学系研究科の研究者より

循環器内科（心臓カテーテル治療）領域における医療機器開発に際し、平成25年度ギャップファンドの支援をいただきました。資金は開発機器の評価システム構築、並びにブタでの動物実験費用に充てさせていただきました。さらに翌年、この際の結果をもとに経済産業省が進める平成26年度医工連携事業化推進事業に採択いただくことができ、現在も複数の企業とコンソーシアム形式で開発を継続しております。Gap FundがProof-of-Concept段階の資金として大きな役割を担いました。

▶ 薬学研究科の研究者より

JSTの平成26年度大学発新産業創出プログラム (START) 申請計画について多方面からご指導頂きSTARTの採択につながったうえに、採択から研究開始までの期間に予備検討の費用をサポートして頂き、研究開始時からトップスピードにてSTARTを推進できました。